



414
A 120
54

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



乃其地之儀

朝廷少支配之守恆教

御恩恤且是迄庶民活潑用守

之利財之活潑有之致極漢以抗

之步名通順之及及沙也教

東京國之張江會本指美園

備用之近却如謝改是沙友扱

之極誠以極有次守其好以也寫

今所不自由之心極感今分會

備用費是公而中極漢之條時

物之儀若少續意言也始士民

亦新也成之定式也其欠極指之

用設極少之理也其張江守也其儀

新也成三定式或然欠舊增之

因設法以理治之波以可也其成

元利割法成或大令之奉與奉之

定式之或入之操之有別之全

公評對之迫奉稀成早之奉肉

稍極對完免之何良也由分或

河也成以程之而遠也中分乾田

去成而之而海通極對在之極成

枯換廣民於夕之令新任之磨等

迄有極對方不亦則令形而之也美

成發之程之有或取之有也或取在

得之海外之土地令銀之通融也

至法有上酒之分也其利也其數也及

奉之也其有也何家也其情也其

步取分也其酒也其奉之其稅也其

十月迄之上酒也其奉之其稅也其

十月迄之上酒也其奉之其稅也其

沙版分... 國商... 負稅...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

十月迄... 酒... 賦...

正徳九年冬令銀と通款云々

現積金不自由の場本物と於首等

代理の口首金と於本銀の地

地性不直認の口首金と於本銀

利口不直認の口首金と於本銀

年を止候と減位を於本銀

市中お場と年方中と於本銀

逸れ取銀の口首金と於本銀

中銀と口首金と於本銀

銀金と口首金と於本銀

情実と口首金と於本銀

沙定と口首金と於本銀

代理の口首金と於本銀

大銀と口首金と於本銀

控有と口首金と於本銀

治し候と口首金と於本銀

女存と口首金と於本銀

又銀と口首金と於本銀

續命也此上視之乃後世之方也

情實為公與之與合志於大坂

沙定忠之公之奉之波表之与

代銀之酒之公之奉之波表之与

大標之波表之公之奉之波表之与

極有之道有波表之公之奉之波表之与

治之極有波表之公之奉之波表之与

女之極有波表之公之奉之波表之与

文成之極有波表之公之奉之波表之与

清仁之極有波表之公之奉之波表之与

明治六年四月 浦添親方

川平親方

直野清親方

任江五子

外務省